

2010年(平成22年)10月8日(金曜日)

日 刊 留 萌

増毛道 利活用の検討へ ハイキングや自然観察会

ングなど地域住民が楽しめる利活用について検討する。

増毛山道は、江戸時代末期にマシケ漁場を請け負っていた商人が自費で開削した山道。漁場の連絡道やロシア北方警備の輸送路として活用された。増毛山道の会が復元に意欲を見せたが、暑寒別天売焼尻国定公園内や道有林内にあり、国や道の許可がなければ開削はできない規制区域になっている。このため道が、増毛山道の会など地元熱意に配慮して道の事業として開削を後押ししている。

環境生活課によると、二十一、二十二年度とも国の緊急雇用創出推進事業として作業員を短期雇用して増毛山道の会の会員と開削作業に当たった。初年度の事業費は約百六十万円、二年目は約二百四十万円。二十二年度の作業は八月中旬から行われた。

留萌振興局は、二十一年度からNPO法人増毛山道の会(伊達東会長)に委託して増毛町別荘と石狩市浜益地区幌を結ぶ増毛山道(全長約三十八キ)の復元作業に取り組んでいる。これまで別荘と増毛町岩尾間の増毛山道抜け道ルート(全長十五キ)を切り開き、二十二年度の作業はほぼ終了した。今後は、二十三年度の開削継続を含めてハイキ

開削した別荘と岩尾間の増毛山道抜け道ルートは、かつて荷物を積んだ馬が通った山道で急斜面がなく、ハイキングのほか自然観察会、子供の自然体験教室に活用ができるという。また、浜益地区幌までの残り区間について開削が必要かどうか関係者と協議する考えだ。(佐々木仁)